

エア・アンド・スペース・パワー研究査読規程

1 投稿原稿の受付

編集委員会は、「エア・アンド・スペース・パワー研究投稿規程」に従って投稿された原稿が、「エア・アンド・スペース・パワー研究執筆要領」に定められた形式を満たしていることを確認し、受け付ける。

2 査読者の選定

編集委員会は、投稿原稿の分野又は近接分野を専門とする研究者から、査読者2名の選定を行う。編集委員会は、必要に応じて幹部学校航空研究センター員以外の研究者等、査読に必要な専門性を有する者に査読を依頼することができる。

なお、投稿者と査読者の間及び査読者間は相互に匿名性を厳守する。

3 査読者による評価

編集委員会は、本誌に投稿された原稿の採否の判定のため、査読者に対し、別紙に基づき査読を実施し、次の4段階評価及び所要のコメントを付すよう求める。ただし、査読者2名による判定が大きく食い違った場合、編集委員会は、第3の査読者に査読を依頼することができる。

- A：掲載可
- B：修正のうえ、掲載可
- C：修正のうえ、再査読
- D：掲載不可

4 審査

編集主任は、査読者全員の評価及びコメントに基づく審査案を作成して編集委員会の審議に付す。審査結果には、投稿原稿の採否に関する判定及びコメントを含むものとする。

5 審査結果の通知

編集委員会は、投稿原稿の受付から原則として2か月以内に、執筆者に対して採否の判定及びコメントを通知する。

6 再投稿

編集委員会は、掲載不可の決定がなされた原稿の投稿者に対して、査読者の評価及びコメントに基づき、再投稿を求めることができる。再投稿された原稿については、原則として、新たに投稿された原稿と同様に取り扱うが、不採用決定時と実質的に同一の内容と判断される論文等が再投稿された場合には、

編集委員会は、再投稿原稿を受け付けないことができる。

7 依頼原稿の査読及び審査

依頼原稿の査読及び審査は、編集委員会の承認を得た場合には、省略することができる。

エア・アンド・スペース・パワー研究査読要領

1 査読の目的

査読は、投稿原稿（調査研究、書評、文献紹介）の内容を客観的に評価し、本誌への掲載にふさわしいものであるかどうかを判定するための資料を編集委員会に提供することを目的とする。

2 査読者心得

- (1) 査読者は、執筆者の指導教員ではなく、執筆者と対等の研究者である。査読者は、その原稿のよい点を積極的に見つけ、不十分な点については建設的なコメントをするなど、原稿が掲載できるように努力する。また、採択の可否にかかわるコメントか、参考コメントかをできる限り明示する。
- (2) 査読では、安全保障問題に関する研究テーマや研究方法、論文の書き方が多様であることを踏まえ、多様性を尊重し、自己の研究分野の研究手法や論文の書き方を押しつけないように心がける。
- (3) 査読者は、執筆者の主張に賛成できなくても、執筆者の主張が明らかに誤っているという十分な証拠がない場合は、その主張を尊重し、過度の修正を要求しないようにする。
- (4) 投稿原稿は、分量の上限が規定されている。加筆を要求するコメントを書くときには、削除してよい部分を提案するなど、分量の上限を超えずに改稿できるように配慮する。その際、他の査読者から別の箇所に対して加筆の要求がある可能性が高いことにも留意する。
- (5) 投稿原稿の掲載可否の決定が遅れることは、執筆者に大きな不利益をもたらすことを自覚し、期限を厳守する。やむを得ない事情があるときには、すみやかに担当編集委員に連絡する。

3 査読の視点等

(1) 査読の視点

査読は、以下の5つの視点による。

- ア テーマの適合性（取り扱っているテーマが本誌にふさわしいか。）
- イ 独創性・研究史上の意義
- ウ 実務への示唆
- エ 実証性

オ 論理性

(2) その他の留意事項

より格調の高い論文等とするため、基本的な論文の完成度を計る以下のような点にも留意する。

- ア 論文等として体裁が整っているか。
- イ 執筆要領に従っているか。
- ウ 簡潔明瞭に記述されているか。
- エ 実証的なデータは適切に位置づけられているか。
- オ 注や参考文献は本文と対応しているか。
- カ 専門用語の使用は適切か。
- キ 語句や文法的な誤りがないか。
- ク 誤字脱字はないか。
- ケ 句読点に誤りはないか。

4 評価及び判定

(1) 評価及び判定の種類

投稿原稿の掲載に関する査読による評価及び編集委員会の審査における判定は、以下の4つの種類のいずれかで出される。ただし、評価及び判定の決定は、評価できる項目や問題のある項目の多少によるものではない。

- A：掲載可（コメントに従った簡単な修正を必要とする場合を含む。）
- B：修正のうえ、掲載可
- C：修正のうえ、再査読
- D：掲載不可

(2) 種類の基準等

- ア そのままあるいは字句の修正程度で掲載が可能な場合は、Aと判断する。
- イ 論旨が変わらない範囲での修正が必要な場合はBと判断する。
- ウ 論旨が変わるような修正が必要な場合はCと判断する。
- エ 次のような場合は、Dと判断する。ただし、コメントにおいて、その論拠を具体的に述べることが求められる。
 - (ア) 本誌が投稿を受け付ける分野の内容ではない。
 - (イ) 本質的な誤りがある。
 - (ウ) 内容の程度が低く、学術上又は実務上の重要性がない。
 - (エ) 論旨が不明瞭で議論構成が弱く、修正稿においても改善の見込みがない。

(オ) 推敲や書式の統一が不十分であり、形式的な完成度が甚だしく低い。

査読評価表

原稿のタイトル：					
<p>掲載の採否に関する評価</p> <p>掲載に関する評価について該当する記号に○を付けてください。</p> <p>A 掲載可 B 修正のうえ、掲載可 C 修正のうえ、再査読 D 掲載不可</p>					
次の5つの視点から原稿を評価した場合、それぞれ該当する記号に○を付けてください。					
テーマの適合性	○	・			×
独創性・研究史上の意義	◎	・	○	・	△
実務への示唆	◎	・	○	・	△
実証性	◎	・	○	・	△
論理性	◎	・	○	・	△
<p>コメント</p> <p>(記入方法) B、Cの場合は具体的な修正点について記してください。Dの場合は、その理由と今後の課題についてコメントしてください。なお、コメントは2ページ以上になっても結構ですので、必要な事項を全てご記入ください。</p>					